

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの発生抑制の推進		事業実施主体	市
	事務事業	レジ袋等削減推進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	環境負荷の少ない循環型社会を構築するため、ごみの発生抑制に向けた取組として、事業者、市民団体、市の三者により、レジ袋等の削減に関する協定を締結し、協働してレジ袋の削減を推進する。引き続き、事業者に対し、協定への参加の呼びかけを行い、賛同を得られた事業者と協定を締結する。		
30年度概要	協定に賛同を得られた事業者と「レジ袋等削減に関する協定」を締結し、レジ袋等削減を協働して推進する。また、同一基本事業である「事業系ごみ減量推進事業」の協力事業所（多量排出事業者・地球にやさしいオフィス・地球にやさしい店）へもレジ袋削減への協力を呼びかける。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型	

【事業の目的】

対象（何を）	市内のスーパー、ホームセンター等の事業者
意図（どのような状態にしたいか）	レジ袋等削減の協定事業者の買い物袋持参率（レジ袋削減率）を向上させ、レジ袋等の削減を推進する。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
協定締結事業者の年間平均レジ袋削減率	%		29.4	29.1	30	30

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
協定締結事業者の年間レジ袋削減枚数	千枚	目標値		10,807	10,955	11,029	11,103
		実績値		10,881	10,770		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 協定締結事業者の年間平均レジ袋削減率は、中期目標30パーセントに向け、毎年0.2ポイントずつの増加を目指す。併せて、当面の累積削減目標である1億枚を目指す。なお、平成29年度の目標達成度は、98.3パーセントであった。	(目標達成度)		(達成度)	98.3%			
							34点
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）	(目標達成度)						

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	4,257	4,318	3,414	3,415
（事業費）	[円]	35	0	0	1
（職員人件費）	[円]	4,222	4,318	3,414	3,414

【評価】

評価ランク (A～D)	<b>A</b>	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	<b>継続</b>
-------------	----------	---------------------------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

買い物袋持参によるレジ袋の削減を効果的に推進するため、店舗内告知用看板を、協定締結事業者の店舗入口やレジ横等視覚効果の高い場所に設置する等により、恒常的な意識啓発に効果があった。平成29年度末現在で12事業者39店舗に設置しており、着実に増加している。（H28年度末8事業者22店舗）

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

引き続き、協定締結事業者の店舗入口やレジ横等視覚効果の高い場所に、店舗内告知用看板やポスター等を設置する等、恒常的な意識啓発を目指すとともに、同一基本事業である「事業系ごみ減量推進事業」の協力事業所（多量排出事業者・地球にやさしいオフィス・地球にやさしい店）へもレジ袋削減への協力を呼びかける。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進	電話番号	087-839-2393	
	基本事業	ごみの発生抑制の推進	事業実施主体		
	事務事業	家庭系ごみ減量推進事業	事業期間	平成28年度～平成35年度	

【事業全体概要】

事業の概要	環境への負荷の低減と限りある資源の有効利用による持続可能な「循環型社会」を形成していくことが強く求められており、ごみの発生抑制やリサイクルをすすめることが重要となり、一人ひとりがごみに対する意識を高め、ごみに責任を持つことが求められている。このよきことから、家庭から出るごみの減量を推進するため、生ごみ処理機等購入を補助している。平成29年度に制度の改正を行い、補助申請を行ってから5年を経過し、新たに買い替える場合も補助対象とした。また、平成29年度に要綱を改正し、生ごみ処理機補助金の補助率及び限度額等を見直した。
-------	---

30年度概要	生ごみ処理機等の購入補助のうち、生ごみ堆肥化容器は、1世帯につき2基まで、補助限度額は、3,000円、補助率は、購入価格の1/2の補助要件、生ごみ処理機は、1世帯につき1基、補助限度額は、16,000円、補助率は、購入価格の2/5（ディスポーザー型を除く）の補助要件で、購入補助を実施する。
--------	---

重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の類型
--------	----------	---------

【事業の目的】

対象(何を)	ごみを排出する市内の全世帯及び家庭系可燃ごみの量
意図(どのような状態にしたいか)	各家庭に「生ごみ堆肥化容器」や「生ごみ処理機」の購入を促し、家庭から生ごみを排出する際に、積極的に使用してもらうことにより、1基当たり年間推計117.1Kgの生ごみの減量化を目指すとともに、本市焼却施設・最終処分場の延命化にも繋げていく。

【事業の活動】

活動指標名(具体的にどのような活動をしたか)	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
生ごみ処理機等購入補助基数	基		266	221	230	230

【事業の成果】

成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
生ごみ処理機等使用による生ごみ減量値(推定)	kg	目標値		26,933	26,933	26,933	26,933
		実績値		31,148	25,879		
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか) 生ごみ処理機等使用による年間推定生ごみ減量値(Kg) = 年間補助基数 × 1世帯が排出する年間推計生ごみ量117.1Kg/基 平成28年度の成果目標値26,933Kgを中期目標値とする。なお、平成29年度の目標達成度は、96.1パーセントであった。		(目標達成度)					(達成度) 96.1% 33点
成果指標名(どのような成果が得られたか)	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度(目標に対してどれだけ達成できたか)		(目標達成度)					(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度(決算)	平成28年度(決算)	平成29年度(決算)	平成30年度(予算)
トータルコスト	[円]	5,305	6,462	5,733	5,764
(事業費)	[円]	1,850	2,536	1,939	1,970
(職員人件費)	[円]	3,455	3,926	3,794	3,794

【評価】

評価ランク (A~D)	A	今後の方向性 (拡充、継続、改善継続、縮小、廃止)	継続
-------------	---	---------------------------	----

【昨年度の実施状況と課題】(評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入)

平成29年度は、家庭から出る生ごみの減量化推進のため、生ごみ処理機等221基に対して購入補助を行い、家庭から出るごみの減量を推進した。

【今後の事業方針】(評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入)

平成30年度から生ごみ処理機等の補助について見直しを行ったが、引き続き費用対効果に留意しながら家庭から出る生ごみの減量化推進のため、補助を継続していく。

平成30年度（29年度決算分）高松市事務事業評価表 【事中・事後評価】

総合計画 体系	まちづくりの目標	安全で安心して暮らし続けられるまち	評価 担当	局名	環境局
	政策	環境と共生する持続可能な循環型社会の形成		課(室)名	環境保全推進課
	施策	ごみの減量と再資源化の推進		電話番号	087-839-2393
	基本事業	ごみの発生抑制の推進		事業実施主体	
	事務事業	事業系ごみ減量推進事業		事業期間	平成28年度～平成35年度

【事業全体概要】

事業の概要	事業の用に供する延べ面積3,000㎡以上の建物を有する事業者（多量排出事業者）に対し、「事業系一般廃棄物減量等計画書」の提出を求めるとともに、優秀な取組をしている事業者をエコシティたかまつ優良事業者として表彰する。また、地球にやさしいオフィス・店の登録事業者やエコシティたかまつ優良事業者等の事業系ごみ減量推進に向けた取組状況をホームページ上で公表し、市内事業者への事業系ごみ減量の推進を呼びかける。		
30年度概要	事業の用に供する延べ面積3,000㎡以上の建物を有する事業者（多量排出事業者）に対し、「事業系一般廃棄物減量等計画書」の提出を求めるとともに、優秀な取組をしている事業者をエコシティたかまつ優良事業者として表彰する。また、地球にやさしいオフィス・店の登録事業者やエコシティたかまつ優良事業者等の事業系ごみ減量推進に向けた取組状況をホームページ上で公表し、市内事業者への事業系ごみ減量の推進を呼びかける。		
重点取組事業	市長マニフェスト	事務事業の種類	


【事業の目的】

対象（何を）	事業の用に供する延べ面積3,000㎡以上の建物を有する事業者及び事業者が排出する事業系一般廃棄物
意図（どのような状態にしたいか）	対象事業者に対し、事業系一般廃棄物減量等計画書の作成及び計画の実行に取り組んでもらう。

【事業の活動】

活動指標名（具体的にどのような活動をしたか）	単位	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
一般廃棄物減量等計画書受付件数	件		258	244	270	270

【事業の成果】

成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
多量排出事業者の廃棄物リサイクル率	%	目標値		64.9	65.2	66	66
		実績値		64.9	65.2		
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか） 多量排出事業者の廃棄物リサイクル率の中期目標を66.0パーセントとし、年0.2～0.3ポイントの増加を目指す。なお、平成29年度の目標達成度は100パーセントであった。 		(目標達成度)					(達成度) 100.0% 35点
成果指標名（どのような成果が得られたか）	単位	種別	H27	H28	H29	H30	中期目標 H30
		目標値					
		実績値					
成果指標の達成度（目標に対してどれだけ達成できたか）		(目標達成度)					(達成度)

【コストの推移】

指標名	単位	平成27年度（決算）	平成28年度（決算）	平成29年度（決算）	平成30年度（予算）
トータルコスト	[円]	3,852	3,930	3,816	3,824
（事業費）	[円]	13	4	22	30
（職員人件費）	[円]	3,839	3,926	3,794	3,794

【評価】

評価ランク（A～D）	<b>A</b>	今後の方向性（拡充、継続、改善継続、縮小、廃止）	<b>継続</b>
------------	----------	--------------------------	-----------

【昨年度の実施状況と課題】（評価ランクの結果に対する理由などを分析して記入）

平成29年度は、多量排出事業者に対し「事業系一般廃棄物減量等計画書」の提出を求めたところ、廃棄物リサイクル率は5年前の51.9パーセントに対して13.3ポイント増の65.2パーセントとなっており、中期目標値としている66.0パーセントに対しても98.8パーセントの達成率を示した。

【今後の事業方針】（評価ランクの結果を受けて、上記課題に向けた今後の方針を具体的に記入）

多量排出事業者の廃棄物リサイクル率の中期目標を66.0パーセントとしており、今後、年0.2～0.3ポイントの増加するよう対象事業者への働き掛けを継続する。